

## 14. 財産処分の手続

### 14-1. 財産処分

- (1) 補助金の交付を受けた方が、「処分を制限された取得財産等」（取得価格が単価50万円以上の充電設備および取得価格が単価50万円以上の付帯設備）を処分（補助金交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、廃棄又は担保に供することをいう。）することは財産処分に該当します。
- (2) 補助金の交付を受けた方が、「取得財産等の処分を制限する期間（5年）」にやむを得ず「処分を制限された取得財産等」を処分しようとするときは、あらかじめ「財産処分承認申請書（様式22）」をセンターへ提出し、センターの承認を得る必要があります。
- (3) センターが、処分を制限された取得財産等の処分を承認する場合においても、処分の目的、事由によっては、期限を付して補助金の全部または一部の返還を求めることがあります。
- (4) センターの承認を得ずに、取得財産等の処分を行なったことが判明した場合は、センターは補助金の全部または一部の返還を求めることがあります。
- (5) 次のア～エの処分は、センターが提出された財産処分承認申請書や添付書類などを確認し、補助金の返還を不要と認めることがあります。
  - ア. 処分を制限された取得財産等の処分が本人の責めに帰さないやむを得ない事由による処分。（天災または過失のない事故等により処分を制限された取得財産等が使用不可能となり廃棄処分をする場合。）
  - イ. 住宅および建築物等に充電設備が設置された場合における、当該住宅および建築物等の譲渡と併せて行われる当該充電設備の譲渡。
  - ウ. 申請者が所有していない土地に充電設備が設置される場合において、当該土地所有者の意向による土地の利用用途の変更に伴う当該充電設備の処分であって、処分後も引き続き当該充電設備が本補助目的の達成を図るために利用されるものとしてセンターが認めるもの。
  - エ. その他センターが充電設備の普及の促進に特に必要と認める処分。

## 14-2. 処分をする場合の手続と注意事項

### (1) 手続について

- ・補助金の交付を受けた方が、やむを得ず「処分を制限された取得財産等」を処分しようとする場合には、事前にセンターに「財産処分承認申請書（様式22）」を提出しなくてはなりません。

※必要に応じてセンターが「実施状況等報告書（様式32）」を求めることがあります。

- ・センターは、「財産処分承認申請書（様式22）」を受けて処分内容を判断し承認する場合には、「財産処分承認通知書（様式23）」をもって通知します。この場合、処分の目的、事由によっては、期限を付して補助金の全部または一部の返還を求めることがあります。

※センターからの財産処分承認通知書の受領前に「処分を制限された取得財産等」を処分してはなりません。

- ・処分完了後、「実施状況等報告書（様式32）」にてセンターに処分の内容を報告しなくてはなりません。

### (2) 注意事項

#### ア. 補助金の扱い

- ・保有期間や処分の事由等によって、センターが指示する金額の補助金を指定する期限までに返還しなければなりません。なお、期限までに返還しない場合は、返納期日から返納日までの日数に応じ、年10.95%で計算した加算金が発生します。
- ・補助金の返還が完了するまで、同一申請者に対して新しい申請の補助金の交付は行ないません。
- ・取得財産等を処分することによって収入があるとセンターが判断する場合は、その収入の全部または一部の納付を求めることがあります。
- ・補助金の返納の有無や返納額は、処分の目的、事由、提出された財産処分承認申請書等の内容に基づきセンターで決定します。

#### イ. センターの承認を得ずに、処分を制限されている取得財産等を処分した場合

- ・処分制限期間内に処分したことが判明した場合は、交付された補助金の全部または一部の返還を求めることがあります。
- ・上記の場合は、補助金を受領した日から返納の日までの日数に応じて加算金（年10.95%で計算した加算金）の納付も併せて求めることがあります。

### **14-3. 取得財産等の譲渡**

有償譲渡、無償譲渡を問わず、財産処分として、処分前にセンターに財産処分承認申請書の提出が必要です。センターから財産処分承認通知書が届く前に処分（譲渡）してはなりません。

譲渡後の取得財産等の利用状況等によっては、補助金申請者に交付済みの補助金の全部または一部の返納義務が発生することがあります。

### **14-4. 取得財産等の廃棄**

取得財産等を廃棄するときには、財産処分として、廃棄前にセンターに財産処分承認申請書の提出が必要です。センターから財産処分承認通知書が届く前に廃棄してはなりません。

廃棄の場合、原則、交付済み補助金の全部または一部の返納義務が発生します。ただし、天災や無過失事故等で補助金申請者本人の責めに帰さないやむを得ない処分の場合には、罹災証明書や無過失証明書の提出、および廃棄後の廃棄証明書の提出を受けてセンターが認める場合は、補助金返納義務が生じないことがあります。

### **14-5. 取得財産等の移設**

取得財産等の移設（設置場所の変更）をするときには、原則、財産処分として、移設の前にセンターに財産処分承認申請書の提出が必要です。センターから財産処分承認通知書が届く前に移設してはなりません。

取得財産等の移設の場合、移設前と同様の使用条件で使用し続ける場合で、センターが認める場合は、補助金の返納義務が生じないことがあります。